

第10回新しい公共島根県運営委員会〔議事概要〕

- 日 時：平成25年5月31日（金）13：00～16：30
- 場 所：島根県民会館第1多目的ホール
- 出席者：別添出席者名簿のとおり
- 概 要

【運営委員の退任及び任期の延長】
○事務局より説明し了承

【運営委員長挨拶】

- ・新しい公共という言葉自体が死語のようになってしまったが、言葉はともかくその意義はとても大事。
- ・最近の国の動き等をみていると、「自立」ということが随分強調されてる感がある。
- ・2年間新しい公共支援事業として、国全体としても随分お金を使ってきた。一体どんな効果が上がったのかということを検証していく必要がある。一体何が残せるのかについて、島根から検討課題を出していけたら良い。

【報告事項】

(1) 地域別いきいき活動支援ネットワークづくり事業の成果報告

- 各事業実施団体毎に発表、質疑あり
- 了承
- 主な質疑

- ・成果の部分を詳しく聞きたい
- ・どこがうまくいって、どんな課題・障害があって難しかったか、具体的に教えて欲しい。
- ・事業終了後の事業実施体制は？
- ・行政の関わり方は？
- ・モデル性はどこにあるか？
- ・今後の財源確保の見込みは？
- ・ネットワークのあり方について
- ・事業実施によって変わった点は？ など

【協議事項】

(1) 新しい公共支援事業の実績報告及び監査報告

- 事務局より事業報告及び監査報告、運営委員会評価結果報告の内容について説明
- 事業報告の内容について、各委員から監査時の感想も含め発言あり。
- 了承
- 主な質疑

- ・評価の視点、基準の目合わせをしておいた方が良い
- ・どのような評価をするか、できたかできないかも重要だが、「こういうことが難しかったからできなかった」という視点の方が良いと思う。
- ・補助金を出す県としてはどう評価するのか。どんな点に重きを置くのか。
- ・審査会のプレゼンテーションで団体が実施すると言われたことについては、きちんとそれができたかどうかは確認が必要。
- ・プレゼンテーション時のやりとりは記録に残して、他の運営委員にも情報を提供して欲しい。
- ・報告書の書き方や成果発表での説明の仕方も大切だと思う。事前に指導する必要もあるのではないか。
- ・「この団体は当初掲げていた目標を達成してないのでだめ」とか、そういう話ばかりが重要ではないと思う。事業内容を見て、今後、全体としてどこら辺を共有して行く必要があるのかという視点でもご意見いただきたい。
- ・監査に行って痛切に感じたのは、報告書の書き方。成果物を具体的に計量できるものは計量して書くっていうことは徹底して欲しい。それ

- から、箇条書きの記録でノウハウの記録にはなっていないので、この事業から何か学んだということは他者にはわかりにくい。
- きちんとまとめができるようにサポートが必要。成果が出たというだけでなく、何でそこはいい成果が出たのかという点を意識して書くことが必要。記載例があると良いのでは。
 - ネットワークづくり事業に関して、「中間支援的な役割」のとらえ方が団体によって異なる。そもそも「中間支援的な役割を果たす団体の育成を目指す」という事業目的について、助成する側が事前にきちんとイメージできていたか、あいまいではなかったかと思う。この点は非常に難しい。
 - 監査ではいろいろな話が出てくるが、最終的にどんな点がポイントだったのかについて、団体側がわかりにくい場合もあると思う。ポイントをまとめてもらうと良いか。
 - 隠岐の事例について、まちづくりを観光でやろうと思っている地域で活動団体をどう組織化していくかについて非常に参考となるのではないか。また、ソフト開発は非常に難しいと感じた。それから、マルチワーカー型の雇用はおもしろいと感じた。最後にモデル事業なので、どこにモデル性があるのかについて分かりやすく提示してもらいたかった。
 - マルチステークホルダーについて、がちがちに連携する関係もあれば、そうでない関係のものもあって良いと感じた。それから、マルチステークホルダーだけを目的にすると、逆に問題となる場合も出てくるのではないかと感じた。
 - 他の補助事業でも監査が実施されていると思うが、「領収書だけ揃ってればそれで良い」というような監査が多いのではないかと感じた。今回監査で厳しくヒアリングしたが、気の毒な気もした。
 - 人の雇用について、採択段階で今回新規雇用する人は今回の事業終了後も継続して雇用すると約束していたにも関わらずできなかった事例が多い。責任をもっと痛感して欲しい。それはNPO側も行政も。
 - 「NPO側がもっとしっかりすべき」といわれる場合が良くあるが、制度面での欠陥もあるのでその点も考慮すべき。
 - その点も分かるが、一方で当然やっておくべきことがされていないケースもある。
 - 事業を評価する際に、事業計画通りにできたということも大切だが、この事業を実施して「何が残せるのか」を大切にすることはどうかと感じた。

【その他】

(1) 平成25年度新しい公共支援事業の進捗状況

- 事務局より事業進捗状況を説明
- 事業報告書は、「県民向けで分かりやすいものとする」ことで了承
- 主な質疑

- 関係者向けというよりも、一般の人にもっと知ってもらいたいところをアピールする正確のものにしてはどうか。
- 報告書の内容は、団体紹介ではなく、活動の取り組みの報告ですよね。
- どこの地域も壁にぶつかったりして悩んでる。地域が今後参考にできるようなものとするためには、良いところだけ書いた報告書では役に立たないのではないか。
- 詳細版は別途作成することとしてはどうか。
- 一般の人向けということからすれば、国に報告するような様式では読む気がしない。文章が多すぎる。
- せっかく高いお金で作るとすれば、皆さんが読みやすいものの方が良い。
- 結局誰に読んでもらいたいのか、誰向けかが問題
- どこかにヒントが書かれていると良い。
- 詳しいことは問い合わせ先に聞けば良いのではないか。